

研究指導教員の決定と研究指導の方法 <博士前期課程（応用生物科学専攻）>

(1) 研究指導教員の役割

- ① 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- ② 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要となる授業科目について、シラバス等を参考にして個々の学生の指導を行う。
- ③ 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名を決定し、さらに1名の副研究指導教員を設ける（研究指導教員が助教の場合は、必ず講師以上の副研究指導教員を設ける）。

(2) 副研究指導教員の役割

- ① 副研究指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を行う。
- ② 副研究指導教員は、研究指導教員の指導に関する学生からの相談に応じ調整を行う。

(3) 研究指導教員の決定プロセス

- ① 学生募集要項記載の教員一覧等を参考に、出願前に研究指導を希望する教員との面談等を行い、出願時に希望する研究指導教員を選択する。
- ② 入学予定者は、原則として入学までに研究指導教員予定者を決定しておく。
- ③ 入学後、専攻教授会において研究指導教員を正式決定する。

(4) 研究指導の方法 ※1

本専攻における研究指導の方法は、以下の①～⑥のとおりである。研究指導教員は毎年度の初めに、あらかじめ学生に対して研究指導計画を明示し、1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、学生と副指導教員に対して明示する。

① 研究計画の立案（1年次）

- (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究指導教員とともに研究計画を立案する。
- (2) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献調査方法・文献読解方法などを指導する。
- (3) 研究指導教員は、学生が記入し提出した研究指導計画書の研究計画に基づき、課程修了までの研究指導計画を1年ごとに記載し、学生と副研究指導教員に明示する。
- (4) 学生と研究指導教員は、協議のうえ「研究指導計画書」を作成し、研究科長へ提出する。

② 研究の遂行（1年次～2年次）

- (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。研究の遂行にあたり、研究方法の確立、予備実験、調査等を行う。次いで、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
- (2) 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手技の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。
- (3) 研究指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副研究指導教員に明示する。
- (4) 研究指導教員は、研究の進捗状況について確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。

③ 研究経過の中間報告（1年次 10月以降）

学生は、応用生物科学研究プレゼンテーションの授業において研究経過を研究指導教員及び副研究指導教員に報告し、公開の発表会でその内容を発表する。

④ 修士論文の作成（2年次）

(1) 学生は、研究成果をもとに修士論文をまとめる。

(2) 研究指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

⑤ 修士論文の提出・発表（2年次）

学生は修士論文を指定した期日までに提出し、公開の発表会で論文の内容を発表する。

⑥ 研究指導報告書の提出（修了時）

研究指導教員は、「研究指導報告書」を作成し、研究科長に提出する。

※1 （ ）内の年次・月は春入学の場合の目安。秋入学の場合はこの日程に準ずる。